

令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 新道寺 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和5年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の5年生は単学級ですので、個人が特定されることがないように、公表の方法について配慮しています。

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市の実技調査の結果

<男子>

| 本年度の結果 | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ソフトボール投げ | 体力合計点 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|----------|-------|
| 全国 | 16.13 | 19.00 | 33.98 | 40.60 | 46.92 | 9.48 | 151.13 | 20.52 | 52.59 |
| 本市 | 16.30 | 19.17 | 34.49 | 40.75 | 49.29 | 9.48 | 152.47 | 21.39 | 53.38 |

<女子>

| 本年度の結果 | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ソフトボール投げ | 体力合計点 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|----------|-------|
| 全国 | 16.01 | 18.05 | 38.45 | 38.73 | 36.80 | 9.71 | 144.29 | 13.22 | 54.28 |
| 本市 | 16.35 | 18.36 | 38.88 | 38.78 | 39.26 | 9.70 | 145.97 | 13.51 | 55.18 |

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析

- ・ 体育科の学習や運動に対して、肯定的に捉えている児童ほど、体力合計点が高い傾向にある。
- ・ 土日を含んだ1週間の合計運動時間について、比較的男子児童は、多い傾向にある。しかし、女子児童は、「運動する・しない」の2極化にあるといえる。
- ・ 授業で教えあったり助け合ったりして「できた」と感じる児童が平均して90%を超えていることから、体育科においても、「教え合い、学び合うこと」ができる学習活動を推進する。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・ 「めあて」を明確にし、内容を明確にし、活動に取り組む。
- ・ タブレット等を活用し、動きを視覚的に捉えたり自身の動きと比較したりすることで、技能の定着を図る。
- ・ ジャンプアップ運動を取り入れるとともに、活動内容や活動場所を工夫し、実際に運動に取り組む時間を確保する。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

- ・ 縦割り活動や学校行事等で「体力向上」に取り組んだり、「運動(スポーツ)に親しむ時間」を設けたりする。あわせて、休み時間に児童が運動場で過ごせるよう声掛けを行う。また、体を動かすことのよさも伝え、児童が自発的に運動に親しみ、楽しさを味わうことができるようにする。